

## 令和7年度 病害虫発生予察情報(美濃地域:施設野菜) 1月予報

### 【イチゴ】ハダニ類

一部のほ場で発生が確認されています。同一ほ場内で局所的な発生があるため、よく観察してください。天敵を導入したほ場で発生が多い場合は、天敵に影響の少ない薬剤を使用して密度を下げた後、追加放飼してください。

### 【トマト・キュウリ】タバココナジラミ

タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病、トマト黄化病やキュウリ退緑黄化病などのウイルス病害を媒介します。本虫の防除を徹底するとともに、発病株を確認した場合はすみやかに取り除いてください。

### ○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（1月）

作物	病害虫名	1月(予測)	発生状況及び今後の予測	12月(発生)	防除上の注意事項
イチゴ	灰色かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。今後、気温は発病適温より低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>灰色かび病</b> 発病果や枯死した果梗は見つけ次第除去し被害の拡大を防ぐ。</li> <li>・<b>ハダニ類</b> ほ場内をよく観察し、局所的な発生に注意する。また、防除薬剤は同一系統の連用を避ける。</li> </ul>
	うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められない。今後、気温は発病適温より低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	
	ハダニ類	やや少	一部ほ場では発生が認められる。今後、気温が平年より高いと予想されるため、ほ場をよく観察し、発生密度の高まりに注意する。	少	
	コナジラミ類	やや多	一部調査ほ場で発生が認められる。今後、気温は発生適温より低下するため、急激な増加はないと予測される。	やや多	
トマト	灰色かび病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。今後、気温は平年より高く降水量は多くなると予想されており、発病に好適な条件になるため、増加が予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>コナジラミ類</b> 厳寒期でもほ場内で生息しているため防除を徹底する。</li> </ul>
	コナジラミ類	多	調査ほ場での発生量は平年より多い。今後、急激な増加はないと予測されるが、引き続き発生に注意する。	多	
キュウリ	褐斑病	少	耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>べと病・褐斑病</b> 暖房機や循環扇等を利用し、葉の結露時間を少なくする。また、罹病葉を取り除き、薬剤散布を行う。</li> <li>・<b>アザミウマ類(ミナミキイロ)</b> 厳寒期でも低密度で生息しているため、防除を徹底する。</li> </ul>
	うどんこ病	少	耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	—	
	べと病	少	耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	—	
	アザミウマ類	少	今後、気温は発生適温より低下するため、急激な増加はないと予測される。	—	
	コナジラミ類	少	今後、気温は発生適温より低下するため、急激な増加はないと予測される。	—	

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域。

注2) 調査品種 イチゴ:濃姫、美濃娘及び紅ほっぺ、トマト:かれん、りんか

注3) キュウリについては半促成栽培の予測。改植の時期のため、12月の発生量は欠測。

### イチゴ ハダニ類

寄生密度が高まると葉はカスリ状となり、葉や果柄などにクモの巣状の網膜を張って群生します。

厳寒期では急激な増加はありませんが、気温の上昇に伴い生育は早くなり、適温である25℃では、約10日で世代を繰り返すため、防除が遅れるとすぐに増殖し、被害が拡大します。

果実に寄生することはまれですが、多発した場合は着色異常が発生します。

低密度時は葉裏に生息しており、カスリ症状も現れず、発生に気がつきにくいので、よく観察し、発生が確認されたら、防除を実施してください。

### 数値データ (岐阜・西濃地域、中濃地域 12月調査)

	岐阜・西濃		中濃	
	発生率(%)	発生率(%)	発生率(%)	発生率(%)
<b>イチゴ</b>				
灰色かび病 (発病果率 %)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
うどんこ病 (発生株率 %)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
ハダニ類 (発生株率 %)	12.0 (20.9)	0 (22.0)	0 (22.0)	0 (22.0)
コナジラミ類 (寄生株率 %)	8.7 (1.3)	0 (0.6)	0 (0.6)	0 (0.6)
<b>トマト</b>				
灰色かび病 (発病果率 %)	0 (0.0)	—	—	—
灰色かび病 (発病株率 %)	0 (0.2)	—	—	—
コナジラミ類 (誘殺頭数)	18.7 (3.8)	—	—	—

注1) イチゴは岐阜・西濃3ほ場、中濃1ほ場、トマトは3ほ場

注2) ( )内は平年値

注3) コナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板での調査。12月第1半旬～第3半旬の累積誘殺数

### ＝施設栽培の病害虫について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内及び周囲の状況をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

### ＝東海地方1か月予報＝

(名古屋地方気象台 12月18日発表)

向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ないと予想されます。平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所  
トップページ  
二次元バーコード